

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(2020年2月4日～2月10日)

2020年2月11日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領、プーチン露大統領と会談(2/7)

●ベラルーシ、ロシアとガス供給の条件を合意(2/7)

●カラニク保健大臣、ベラルーシの新型コロナウイルス対策について発言(2/7)

【ルカシェンコ大統領動静】

●プーチン露大統領と会談(2/7)

両者は、露ソチ郊外クラスナヤ・パリャーナの別荘「ラウラ」で会談。一対一の会談ののちに、他の政府高官を交えた政府間協議が行われた。

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・我々は実際に多くのことを話した。一つの国家として共同生活をしてきた古い時代のことまで遡り、多くの歴史的な日や瞬間について議論した。

・プーチン大統領が、二国間の相互利益と語る問題以外にも、我々の隣人である旧ソ連諸国に関連する問題を議論した。

・我々は、過去のことにとどまらず、現代の問題についても多くのことを話し、一対一ではなく、このプロセスに関与する国々とともに、対話を継続することを決めた。

(2/7 大統領公式ホームページ)

●スマ・チャクラバルティ欧州復興開発銀行(EBRD) 総裁との会談(2/6)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・貴総裁の任期が終了することを残念に思う。しかし、人生はこれで終わらない。ベラルーシ国民を代表し、感謝申し上げます。

・EBRDは、これまで30億ユーロの対ベラルーシ投融資をしている。昨年だけで、4億ユーロであった。我々は、頂いた資金で浄水設備・暖房設備の整備、道路建設等を行った。これらは貴総裁に関連する。道路の一つを「チャクラバルティ」と命名する必要がある。

なぜなら貴銀行のおかげで良い道路が建設されたからである。

・今後も、ベラルーシは、道路の建設・改修案件におけるEBRDとのさらなる協力を期待している。我々が建設している道路は、ベラルーシのためだけでなく、ロシア、東欧諸国、そしてEUのためでもある。2019年のベラルーシを東から西に通過する貨物車両数は1億1千万台であった。これはベラルーシ全体の70%に当たる。

・貴総裁は英国における著名な人物であり、もしロンドンに残られるのであれば、我々は貴総裁に英国とベラルーシの友好関係設立への支援を期待する。貴総裁は、信頼できる良き友であり、いつでもベラルーシに来て頂きたい。

スマ総裁の発言要領は以下の通り。

・私を高く評価して頂き、感謝申し上げます。ベラルーシとEBRDの関係は、貴大統領の支援により強化された。貴方の指導のもと、EBRDは多くのプロジェクトを実施でき、国家発展に向け尽力できた。

(2/6 大統領公式ホームページ)

【外交】

●チェルプニ在モンゴル・ベラルーシ大使、ツォットバートル・モンゴル外務大臣と会談(2/7)

両者は、相互訪問、在ベラルーシ・モンゴル大使館開設、輸出信用に関する両国間一般協定の実施、議会間交流の活発化等に関し協議した。

(2/7 ベラパン通信)

●ダブキユナス外務次官、崔在ペラルーシ中国大使
と会談(2/7)

両者は、新型コロナウイルスの拡散を防ぎ、適切な公衆衛生を確保するための両国間の相互協力について議論し、新型コロナウイルスに関連する噂や誤報への警戒の必要性について、WTO の推奨事項の遵守の重要性に注目した。また崔大使は、ペラルーシの人道支援に謝意を表明するとともに、二度に亘る人道支援を行ったのは、ペラルーシが初めてである、と述べた。

(2/7 ベルタ通信)

●マケイ外務大臣、ザハリエワ・ブルガリア外務大臣
と会談(2/6)

会談後の記者会見におけるマケイ氏の発言要旨は以下の通り。

- ・残念ながら、我々は過去数年間両国間の積極的協力の重要性を過小評価してきた。今後数年間で失われた時間を補うための全てを行う必要がある。
- ・今年後半のコチャノヴァ・ペラルーシ上院議長によるブルガリア訪問を準備している。同議長訪問により、二国間の関係が質的に新しいレベルに達すると確信している。
- ・二国間関係の基礎は、経済協力である。両国商工会議所の支援を含め、両国ビジネス界の間に新たな関係を築き、既存の関係を強化していくことは我々にとっての大きな関心事である。
- ・また両国の都市間地域協力協定は 40 以上に上り、二国間地域協力に大きなポテンシャルがある。

(2/6 ベラパン通信)

●新型コロナウイルス対策に関するペラルーシの対
中国人道支援、2 回目を完了(2/6)

ペラルーシは 1 月 29 日に一回目の人道支援を完了し、2 月上旬に二回目の人道支援を行った。二回目は、消毒器具・消毒剤、保護用品等、約 20 トンの貨物が運ばれた。なお、中国・ペラルーシ共同産業特区「巨石」からもマスク、医療用ローブ等の保護用品が運ばれた。

(2/6 ベルタ通信)

●マケイ外務大臣、マルク・ハウプトマン・ドイツ連邦
議員(ドイツ・ペラルーシ友好グループ代表)が率いる
ドイツ議会代表団と会談(2/4)

両者は、全ての分野における二国間関係の発展への相互の関心を確認した。同代表団は、ペラルーシ IT 産業特区「ハイテクパーク」の視察をした。

(2/4 ベラパン通信)

●ルマス首相、リンケビチュス・リトアニア外務大臣と
会談(2/4)

ルマス首相の発言要領は以下の通り。

- ・2019 年両国の貿易高は約 15 億ドルまで到達した。
- ・過去 5 年間で、クライペダ港の取扱貨物量の 30% がペラルーシの貨物である。
- ・ペラルーシ国内にはリトアニア資本の企業が 575 社あり、小売り、建設、農業、木材加工、物流分野におけるリトアニア資本による投資案件もある。
- ・今日、ペラルーシにおける二番目に大きな案件、ヴィテプスク州木材加工施設建設プロジェクトを担う BMG 社が、好例である。
- ・二国間税関サービスの統合が、両国政府にとって重要な課題となる。
- ・5 月 14 日～15 日にクライペダで開催予定の二国間経済フォーラムが有意義となることを願っている。同フォーラムで相互関心の高い分野は、物流、林業、木材加工、IT である。

(2/4 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、リンケビチュス・リトアニア外相と
会談(2/4)

会談後の記者会見におけるマケイ外務大臣の発言要旨は以下の通り。

- ・ペラルーシとリトアニアは、単なる隣国という関係ではなく、共通の歴史を持っている。緊密な経済的、人道的、人的の接点が組成された。両国民のための対話の継続、相互利益のある協力の発展が両国の関心事項であると確信している。

・ここ数年は、両国の接触は活発でなく、今回の貴大臣訪問はシンボリックなものである。

・二国間貿易高は、2019年の11ヶ月で13億ドルに達し、過去5年間のリトアニアの投資高は1億5千万ドルを超えた。しかし、両国の協力の潜在性は尽きない。

・会談では、原子力発電所建設等のデリケートな問題も議論された。重要なことは、同原発の建設と運用にあたり最大限の安全確保を確認することである。

(2/4 ベラパン通信)

経済

【対外経済】

●ベラルーシ冶金工場(BMZ)、2019年の輸出高116億ドル、輸出量220万トン。

同社の主な輸出先は、ロシア、ドイツ、エジプト、リトアニア、オランダ、イスラエル。同社によれば、金属製品の輸出価格は、2018年対比11%超下落。

(2/10 ベラパン通信)

●ベラルーシ、ロシアとガス供給の条件を合意(2/7)

露ソチで開催された露ベラルーシ首脳会議の後、コザク露大統領府副長官の声明は以下の通り。

・両国は、2019年と同条件でのガス供給維持を合意した。

・同様に議論の対象となった石油供給については、ベラルーシの消費者とロシアの生産者の間の合意妥結に向け支援する。

・我々は、石油分野の規制を今日急遽変更することはできない。原油価格は市場によって形成され、管理的に調整されることはない。しかし、ベラルーシに必要な量の石油を確保するため、我々は合意妥結に向け様々な支援を行う。

(2/7 ベラパン通信)

●2019年のEU向け農業品輸出額、2018年対比3.2%増加

2019年ベラルーシのEU向け農業品輸出額は2億4100万ドルに達した。主な輸出先は、リトアニア(92.4

百万ドル)、ポーランド(51.2百万ドル)、ドイツ(27.7百万ドル)。主な製品は、牛乳、ホエイ、アイスクリーム、カゼイン、糖蜜、魚製品。

(2/5 ベラパン通信)

【国内経済】

●クルトイ副首相、情報通信省審議会に出席。

クルトイ副首相の発言要旨は以下の通り。

・中期的に、2025年までにIT立国を実現するという大きな課題がある。

・デジタル経済における特定分野発展に向けた立法の枠組みを構築する等の課題があり、デジタル経済評議会の設立を提案する。

・情報通信分野は、2019年に主要な社会経済指標を満たした唯一の経済分野である。

・IT産業はベラルーシGDPの6.5%に達し、大きな割合を占めており、農業、輸送産業、建材製造等の伝統的な分野と肩を並べるほど経済に対する影響力を持っている。

(2/5 ベラパン通信)

内政・治安

●カラニク保健大臣、ベラルーシの新型コロナウィルス対策について発言(2/7)

カラニク保健大臣の発言要旨は以下の通り。

・我々は、優れた専門家と共に、潜在的リスクの評価を通じ、最も効率の良い措置を検討している。ウィルスの国内流入のリスクはあるが、管理可能で、そして大きくはない。

・中国から来た留学生は、ベラルーシ国立大学の保養施設「ブリガンティン」に2週間待機してもらう。これは、検疫ではなく、予防である。強調したいのは、学生たちは、中国の清潔な都市から戻ってきたこと、患者との接触は持っていなかったことである。我々は、学生コミュニティを安心させ、ウィルスの国内流入リスクを最小化するために尽力している。

(2/7 ベルタ通信)

●ラフコフ国家安全保障委員会委員長、崔在ペラル

一シ中国大使と会談(2/5)

(了)

両者は、全ての分野における二国間関係の進展を高く評価し、両国間相互協力と国際安全問題に関し、協議をした。また、戦略的パートナーシップ、交流の強化、安全保障分野での共同プロジェクトの発展の方針を堅持することを確認した。

(2/5 ベルタ通信)